
いちご味の恋

yukato

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

いちご味の恋

【コード】

N4980I

【作者名】

yukato

【あらすじ】

拓の恋物語……

一回別れた彼女が今でも好きで…やりなおすことになった…
好きで…好きで… たえきれない…

プロローグ

そう…俺の初恋は

いちごのように甘かった…

向日葵のように笑う君が大好きだよ

いちご味の恋

第一話 最悪だわ（前書き）

こんにちわ yukatoです。

初めてで…小説書くのなんて。

とにかく頑張りますんで、ヨ

ロシクお願いします。

第一話 最悪だわ

今日は、最悪な朝で……大嫌いな朝で……大嫌いな人に会う日……。

「拓？起きてるの??」

『起きてるよ…ハア』

最悪な一日は始まってしまった

「朝ごはんできてるから、食べて行きなさいよ!!!!!!お母さん。
もう行くからね!!!!!!」

『あゝあ……………うお……………ん』

適当に会話して……母さんが作ってってくれた朝飯食って。重い
体をひこずって学校へ急ぐ。

校門前まで来ると、大嫌いな人に早速あってしまう。

「おはよう。沖田君?」

『……ハハハ　おはよう』

クラスの委員長　崎野夢華　さきのゆめか。　あつ、俺の名前は。沖田拓　おきたたくだ。
俺はこいつに会ったのが嫌だ……きっちりすぎて、なんでもかんでも指摘してきやがる。

「おつはあー！！！！拓っちー！！」

『おお、おはよう。渚。』

こいつは、俺の親友の柿本渚　かきもとなぎさ。

「あら、おはよう。柿本君。」

「ああつ。……おはよう委員長さん！！！！」

渚も苦手らしい。俺は耐え切れない……こんな人朝っぱらからこの人にあつて俺つて不運だなあーって、しみじみ思う……しゃべり方といい。姿形から。

大嫌いだ！！！！！！

のちに俺は……恋を体験したんだ。

大嫌いな人が……大……いや、なんでもない。
思いもよらなかったことがおきたんだ。

第二話 規則とかどうでもいい

俺はすぐさま委員長から遠ざかり、教室に入った。
ーガラッー

「キヤーキヤーー！！！！拓うー！！！！今日もかつこいいなあ。」

『アハハ…おはよう』

うざいんだよね。こつこつのが一番、「好きです」とか告られた時があった。でも俺は、「ごめん無理。じゃ」で、その場から立ち去った。その時、委員長に会った……。

「なにしてるの？花園さんと、沖田君？」

『ゲッ！？』

俺は本当に不運な男なんだと、今でも思う。

「学校の規則に反していますよ？花園さん？その制服。」

ここで、学校の規則について、教えておこうか……

〈学校の規則〉その一

? 女子のスカートは膝又20cm ? 女子のリボンは必ず付ける ? 女子も男子も絶対に腕まくりをしない ? 頭髪茶髪は許さない ? 男子のベルトは黒か茶色を原則とする ? 下着は目立たない白か黒を原則とする

などなど……

これを守ってなかったら、生徒指導室おくりなんだって……委員長はこれを全てクリアしている。まさに完璧女だ……俺はその完璧さが嫌いの一つでもある。もっと、髪は茶髪で軽い化粧ぐらいしてて、軽いパーマで……みたいな女の子だったら、好きになったかもしれなかったのにさあ……おいしいよなあ……って……全然おしくもなんともねえーし。なに考えてんだろ。俺は……。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4980i/>

いちご味の恋

2010年10月17日04時03分発行